



上智大学短期大学部

SOPHIA UNIVERSITY JUNIOR COLLEGE DIVISION

令和4年(2022年)12月9日

通信 第99号

編集・発行 上智大学短期大学部

2022年度 SJ祭

2022年度SJ祭を終えて

SJ祭実行委員会顧問 森下 園

今年度はようやく秦野キャンパスに来場者を迎えてSJ祭を行うことができました。いまだ感染拡大が懸念される状況のため、本学関係者・受験生とご家族などのみ参加としましたが、好天にも恵まれ300名余の来場者がありSJ祭グッズも売完するなどSJ祭実行委員の努力が実った一日でした。ステージでは秦野市長高橋昌和様よりご挨拶いただき、カラオケ大会、ビンゴ、ダンスサークルのパフォーマンス、民族衣装ファッションショー、音楽サークル演奏があり、教室ではSLセンター、スペイン語サークル、和サークル合同のグローバルフレンズ企画、上智Jr.ボランティアのチャリティバザー、ソフィア後援会のお休み処、動画コンテンツであるゼミ紹介動画の上映が行われました。同時にソフィア会による卒業40周年・25周年記念式典も行われ、上智学院理事長の佐久間勤先生も駆けつけてくださいました。また、今年からはじめてキッチンカー

を食事に導入しましたが、好評だったようです。昨年とは異なる運営に加え、2年次生の進路決定の時期と重なり1年次生が担った部署もありましたが、実行委員たちはSJ祭を成功させました。この経験は学生たちの社会人基礎力涵養につながることでしょう。SJ祭を支えてくださった学長の山本浩先生、教職員・スタッフの皆様のご協力に感謝申し上げます。

SJ祭実行委員長・副委員長からのコメント

SJ祭実行委員長 西川 結菜

今年度のSJ祭はキャンパスへの来場は本学関係者のみという制限はあったものの、来場者を迎える開催ということで昨年度よりも皆が楽しめる大学祭にできたと感じています。実行委員メンバーは、進路選択や学業と両立させながら取り組んできました。私たち2年次生でも昨年度とは違う形のSJ祭であったため準備や運営に慣れておらず手探りな部分も多かったのですが、その分多くの実行委員たちが自発的に仕事を見つけ行動し、助け合いながらここまで来ました。この場を借りて共にSJ祭を準備してきた仲間たちに感謝の意を表します。第45回SJ祭により私たちは成長する機会を与えられました。とても楽しく、そして貴重な経験で

した。SJ祭を支えてくださった教職員の皆様、ご協賛企業と団体の皆様、本当にありがとうございました。

SJ祭副実行委員長 片山 智理

天候を味方につけた今年度のSJ祭は眩しい日差しがキャンパスに降り注ぐ中、参加者全員が輝いている姿が終始目に映りました。「コロナ対策で距離は離れるけれど、心は1つに」という想いが込められた今年のSJ祭テーマ“With Hearts United”は、新型コロナウイルスによる垣根を越えて私たちをつないでくれました。開催の裏では、様々な事情で仕事から離脱せざるを得ない委員もいましたが、各部署の正・副ヘッドと実行委員メンバーで助け合い、まさに心を1つにしての準備となりました。それが今回の成功に結び付いたという事実は、当日会場にいた方々の笑顔がなにより証ではないかと副実行委員長として感じています。2020・2021年度は出来なかったキャンパスで来場者を迎えるのSJ祭を無事終えることが出来たのは教職員のみならず、そして実行委員の協力があってこそです。本当にありがとうございました。



学位授与式 (2022年3月・9月) 2022年度入学式

学位授与式

第48回学位授与式が2022年3月11日(金)に秦野キャンパスにて執り行われ、224名の学生が卒業した。式は午前と午後に分けて行い、会場への入場は卒業生のみとし、保証人の皆様にはYouTubeでライブ配信を行った。

山本浩学長は式辞で以下のように述べた。「皆さんの多くが入学した2年前は、新型コロナウイルスの感染が拡大した時期で、入学式は実施できず、春学期の授業は全てオンラインとなった。その後ハイフレックス授業が導入されたが、以前では考えられなかったような学生生活を強いたことは残念であり、申し訳なく思う。そのような中でも勉学に励み、今日の日を迎えられる皆さんの努力に大いなる敬意を表す。皆さんは本学の勉学を通して何か問題であるかを発見し、どのように解決していくかを学び、このことを通して物事を深く考察する姿勢を身につけた。この姿勢こそ、自立した人間が備えるものである。皆さんが生きて21世紀は激動の時代であるが、変化や流れに翻弄されることなく、しっかりと自分の考えを持った自立した一人の人間として生きていくことが重要である。そして、在学中に身につけた「他者のために、他者とともに For Others, With Others」という上智の教育精神を、今後も実践していただきたい。」

2022年度9月学位授与式は、2022年9月22日(木)にハイフレックス形式で執り行われ、11名の学生が卒業した。



入学式

2022年4月4日(月)に174名の新入生を迎えて、第50回入学式が執り行われた。新入生代表(午前の部)は、短期大学部での2年間は仲間たちと互いに支え合いながら、キリスト教ヒューマンズムの精神に即して人間性を高め、多角的な視点を修得すべく学業に精進することを誓った。同代表(午後の部)は、「他者のために、他者とともに」の教育精神に則り、キリスト教ヒューマンズム、幅広い教養と国際性を修得すべく、学業に精進することを誓った。



2021年度学長賞

2021年度の学長賞は、2022年3月11日(金)に執り行われた第48回学位授与式にて、サービスマスラーニング活動(コミュニティフレンド)に参加して地域貢献に尽力した学生一名とコロナ禍でも活動を続けたキッズイングリッシュフレンドに授与された。どちらもコロナ禍により変則的な活動となったが、工夫を凝らしたオンラインでの学修支援を実施し、本学の教育精神であるFor Others, With Othersを実践したとして、受賞に至った。

2022年度学業優秀賞

2022年5月17日(火)に、2022年度学業優秀賞の授与式を4号館411教室にてハイフレックスで行った。前年度の成績を基に、2年次生7名が選ばれ、賞状と副賞として5万円が贈られた。

受賞した学生はそれぞれ、名誉ある賞を授与されたことへの喜びと支えてくれた家族などまわりの方々への感謝を述べ、これからも高みを目指して努力することを誓った。



FACULTY VOICE

サバティカル(特別研修)を終えて

アイヌ文化と信仰のすばらしさを体感したサバティカル(特別研修) 准教授 神谷 雅仁

私は2021年度秋学期にサバティカル(特別研修)を取らせていただき、半年間、短期大学の学務から離れ、自らの研究や自己啓発に多くの時間を費やしました。今回の私のサバティカルはこれまでとは異なり、比較的静かで、あまり動きのない研修期間でしたが、それゆえ自分を見つめ直す良い機会にもなりました。折からの新型コロナウイルス(デルタ株)の脅威は、私のサバティカル期間が開始された時点でも相当深刻でしたが、12月以降はそれに加え、さらにオミクロン株が出現し、瞬間に日本全国に感染が拡大しました。それにより、国内外を問わず移動すること自体が困難な状況がサバティカル期間終了時まで続いたため、私にとっては「我慢の6か月」となりました。

そんな中、私がサバティカル期間中に唯一訪れた場所が北海道白老町にある「ウポポイ:民族共生象徴空間」でした。これはアイヌの人々の文化を振興・発展させるため国によって2020年に開業が始まったナショナルセンターで、「国立アイヌ民族博物館」や「国立民族共生公園」をはじめ、各種の工房や体験学習館などの施設からなる一大拠点です。そこで二日間をたっぷり使い、様々な展示物や舞踏ステージを見たり、多くの体験学習に参加したりしながら、アイヌ民族の多様で豊かな文化や伝統、そして歴史や言語など多くのことについて広く深く学ぶことができました。



中でも今回私が特に興味を持ったのはアイヌの文化や信仰に根差す、人間と自然/環境との関係性です。アイヌは自分たちが暮らす「アイヌモシリ」(人間の大地)に存在する動植物、道具類、火や水、雷や地震、病気など、すべてのものが「ラムツ」(霊、spirits)を持つ「カムイ」(神)であり、そのカムイがそれぞれに姿を変えた

ものであると考えたようです。これは日本に古くからある神道の「八百万の神」という考え方に似ているのですが、アイヌの信仰においては人間以外の万物は神そのものであり、その幾多の神々には良い神も悪い神もあり、それらがいわば「隣人」として我々の日々の生活の中に存在しているのです。そのような信仰により、人間は傲慢にならずに自然を含む他のすべてのものを大事にし、それらと共存すべきであるという世界観に結び付いています。昨今、世界中で自然保護や環境保全の重要性がSDGsを通して声高に叫ばれていますが、私は今回、ウポポイでの展示物や古式舞踏の観覧、また体験学習などを通して、アイヌの人々は遥か遠く古の時代より自然の恵みとともにSDGsを実践してきた賢者であり、また現代人の何歩も先を行く先進性を兼ね備えた民族であるという思いを強くしました。



冒頭で述べたように、北海道への小旅行以外はあまり動きのないサバティカル期間でしたが、自己研究のために本や論文を読んだり、かつて真剣に取り組んだスペイン語の学習に再挑戦してみたり、はたまたこれまで自分が歩んできた足取りを一度振り返り、仕事、家族、健康、将来、生き甲斐等、様々なことについて50代半ばの自分と対話する時間が取れたことは、大きな収穫でした。願わくば移動の自由がもう少しあればさらに充実したサバティカルになったのしょうけれど、すべての日本人が我慢を強いられたこの時期、海外へ行けなかったことは仕方のないこととして受け入れなければならないでしょう。最後に、このように学務を離れ、多くの学び機会を与えていただいたことに対し、この場をお借りして感謝の意を表したいと思えます。ありがとうございました。

2022年度春学期 サバティカル報告

教授 狩野 晶子

第二言語習得、早期英語教育を自身の専門分野として、近年はとくに日本における小学校外国語(英語)の必修化と教科化に伴う変化の中で、小学校英語の現状分析と課題解決をテーマに研究してきました。2022年度春学期にサバティカルを取得するにあたり、世界的なコロナ禍の中で長期での在外研究の見通しが立たずにいました。しかし、ポストコロナの動きとともに欧米各国では学会やセミナーなどが次々とオンラインで開催されはじめたのを機に渡欧し、フランス、イタリア、アイルランド、イギリス及びデンマークでの国際学会に参加し発表や討議を行い、研究者同士の対面での交流や情報交換の機会をしばらくぶりに得ることができました。さらにイギリスでのディスレクシア学会への出席と小学校での授業参観の機会を得たことで、児童を対象とした英語での読み書きの教育についても、研究と実践の双方の観点で広く深く学ぶことができたと感じています。

日本では2020年度からの小学校英語の教科化に伴い、初学者、ことに小学生児童への英語の読み書き指導を系統的に行うことの難しさが浮き彫りになってきています。イギリスでは、母語としての英語教育だけではなく第二言語としての英語教育、そしてディスレクシアなど読み書きの難しさを抱える学習者への英語教育についての研究と実践の歴史を有しています。また、公立の幼稚園と小学校でフォニックスの指導を取り入れ、音と綴りの不一致の多い英語という言語特有の特性を踏まえ、システムチックかつ丁寧に段階を刻む指導の実践が広く行われています。そこで今回の大きな目的はイギリスの小学校において母語としての英語指導を行う様子を参観することでし

た。おかげさまで多学年にわたる授業参観と、さらに特別支援学級での指導の様子もじっくり見せていただく難機をいただきました。なお、イギリスの小学校での参観に際しては、渡航前に日本の警視庁で発行された犯罪経歴証明書を取得し、先方の小学校長に提出する必要性がありました。授業の様子の写真なども厳に禁じられていました。アメリカや他のヨーロッパの国でも同様の制約を設けている場合が多いようです。個人の権利を尊重しながらも、児童を守るためのシステムがしっかりしていることを実感しました。

ヨーロッパの国々では、英語が使えればほとんど不自由なく旅をすることができました。そして国際学会では世界中からの参加者が、それぞれの母語の特徴を強く残した発音や構文の英語を堂々と使って発表や議論を進めていることに感銘を受けました。日本人は「英語が苦手」なのではなく、英語を「使うことが苦手」なのではないでしょうか。複言語主義の広がる欧英において、リンガ・フランカとしての英語の位置づけの重みを再認識するとともに、英語による発信が自信を持って行えることの重要性を、英語教員として再認識させられました。

このような貴重な学びの機会をいただきましたことに深く感謝し、これからの研究と教育活動に還元して参りたく思っております。秋学期からどうぞよろしくお願いいたします。



山本 浩学長 教員生活50周年

山本 浩学長が2021年度に教員生活50周年を迎えられた。山本学長は1972年に上智大学で教員として勤務を開始され、文学部英文学科にて助手、専任講師、助教授、教授と昇任し、40年以上教鞭を執られた。2013年9月より上智大学短期大学部 学長に就任、現在に至るまでリーダーシップを発揮し、短大全体を統括されている。山本学長からコメントをいただいた。

私の上智(大学と短期大学部)での教員生活は、今年の3月末でちょうど50年になりました。上智で半世紀にわたって教員を続けてきたわけですが、長かったようにも短かったようにも感じられる50年でした。

私が上智大学で最初に教壇に立ったのは1972年4月でした(短期大学部が開校する1年前のことです)。上智大学の大学院・英米文学専攻の修士課程を3月に修了して、4月から一般外国語の嘱託助手として英語の授業を担当することになったのですが、学部(文学部英文学科)を卒業して2年しかたつておらず、授業をちゃんとやっていくことができるだろうか、と不安

な気持ちをもったまま4月になり、授業が始まりました。教室に行き、受講者名簿を見ながら出席をとっていると、上智入学が私よりも前の学生がいることが分かってびっくりしたこともありました。

その後、英文学科の助手、専任講師、助教授、教授としてずっと教壇に立つてきました。ところが、65歳の定年の後、特別契約教授として引き続き授業を担当していたところ、思いがけなく理事会から短大勤務を命じられ、今日に至っています。早いもので、短大勤務も今年で10年目になりました。

こんなに長いあいだ上智で仕事をすることができたのも、多くの先生方、職員の皆さん、そして授業につきあってくれた学生たちが支えてくれたからこそ感謝する今日この頃です。





2022年度 6期・7期 ルビー祝 & 21期・22期 銀祝 合同式典 5月29日

2年以上続いているコロナ禍での活動制限により、延期されていた6期・7期のルビー祝と21期・22期の銀祝式典を、オール・ソフィアーズ・フェスティバル (ASF) 開催中の四谷キャンパスにて開催することができました。対面とオンライン併用の、新しい形でのイベントの第一歩となりました。感謝の集い、それぞれの期の代表の方への祝状授与、6・7期生代表の方によるあいさつ、記念撮影などを約1時間で行い、その後はフリータイムとして会場で歓談を楽しんでいただきました。詳しくはHPでもご覧ください。

ごあいさつ (一部抜粋) 6期生代表 野本 麻美子

The song titled 'You are my sun shine' was very popular among Sophia Jr. College students. You know the reason. Because Father Gerard Barry liked this song as he was born New Orleans and nowadays it is Louisiana's state song. We used to sing it in his English class. So, this song reminds me 'the good old days' of College life.

Yes, Joy of Life is very meaningful and precious words. For two years we studied with schoolmates and met teachers with passion and love, and how honor we were to be members of Sophia Family. This college life is one of my Joys of Life. Also today we gathered here to celebrate our anniversaries for 40th and 25th with good old friends, and this moment is absolutely Joy of Life.

ごあいさつ (一部抜粋) 7期生代表 中積 康恵

7期というのは1979年4月に入学、1981年3月に卒業ですので今から43年前の話です。そんな昔の事でも上短の思い出は鮮明に記憶に残っています。

いつも帰りのバスに駆け込んでいたので運転手さんの細川さんにはとてもお世話になりました。いつもニコニコしていたバリー学長はもちろんですが、授業ではスペイン語のサバや先生や竹之内先生の授業、巽先生の授業が記憶に残っています。秘書概論で習ったファイリングは仕事で何度も役にたちましたし、タイピングのクラスのおかげで今もブランドでタイピングができています。

私は卒業後一年だけ旅行会社で働いた後、ハワイで二年、その後アメリカで七年以上仕事をしましたが、いつも「Your English is so good」と言われて、留学していないのに何でそんなにうまいのと言われるのがうれしかったです。それもすべて上智短期大学英語科で学んだからだと今でも胸を張って言えます。先生方本当にありがとうございました。



6期集合写真

21期集合写真

7期集合写真

22期集合写真

- 2021年度ジェラルド・バリー賞 2022年3月11日卒業式にて、田平彩乃さんが受賞されました。今後のご活躍に期待しています。
- 2022年度も総額120万円の奨学金を授与いたしました。充実した学生生活の一助となるようにと願っています。

2022年度 8期 ルビー祝 & 23期 銀祝 合同式典 10月29日

秋晴れのなか、3年ぶりに秦野キャンパスにてルビー・銀祝合同式典を開催することができました。感謝のミサ、祝状授与、各期代表ごあいさつと続きました。詳しくはHPをご覧ください。

ごあいさつ (一部抜粋) 8期生代表 荻野 麻里

スピーチをお引き受けしてから短大生活を思い出そうと、錆びかけた脳をフル回転させましたら、とにかく楽しい、大爆笑の思い出しか思い出せません。とても濃い2年間だったと思います。

スポーツデーでは応援合戦のダンスで、オセロゲームのように白と黒の衣装に分かれて、インベーダーゲームのような振付を作り上げ、クイーンの「We Will Rock You」に合わせて踊りました。せっかくだから顔も白と黒に塗ろうよ、と有無を言わずみんなにドーランを塗ってもらいました。今でも「We Will Rock You」を聞くとあの白黒な情景を思い出します。そして極めつけは卒業の記念に英語で映画を作ろうということになり、丹沢の山並みをアルプスに見立てて、秦野キャンパスで「サウンドオブミュージック」の制作が始まります。

このようなちょっとヤンチャな8期生をソフィアの精神で温かくおもしろがって見守ってくださった懐の深い先生方や職員の方のおかげで、がんばってこられたことは言うまでもありません。そして還暦を迎えました。

これからの人生も楽しんで参りましょう。



8期集合写真

ごあいさつ (一部抜粋) 23期生代表 松野 朗子

私が上智短大で過ごした二年間は、小室ファミリーやパフィーの音楽が町中で流れる浮かれた面もありながら、就職事情は超氷河期と言われ、阪神淡路大震災や地下鉄サリン事件といった社会的に大きな出来事も起きた、なんとも二面性のある二年間でした。

そんな中、私はふてくされて入学してきました。いわゆる滑り止めの学校への入学となったからです。そんな自分が変わったきっかけは、やはり同じキャンパスに通っていた友人たちでした。入学を心から喜び、本当にまぶしくキラキラしていました。そんな友人と過ごすうちに、まるでオセロの駒がひっくり返るような様々なことがポジティブにひっくりかえっていき、楽しくなっていたのです。

あれから25年の時を経て40半ばになった今の自分は、上智短大入学前の自分と同じ場所に立っているのかもしれない。ここ10年余りの人生を受け入れられずにいる今の私と重なって見えます。かつて目の前の幸せに気づかせてくれたこの短大が、再び自分に気づきの扉を開いてくれているような気がしました。秦野キャンパスは、迷ったとき、立ち戻れる場所です。そんな場所が自分にもあることを心から幸せに思います。この日を機に、自分がおかれている環境を受け入れ再び楽しく生きていかれたら良いと思います。



23期集合写真

2022年度総会報告

2022年度の総会もHPへの議案掲載とさせていただきます。

上智大学短期大学部ソフィア会 (同窓会) 2021年度 決算報告

(2021年4月1日～2022年3月31日) 2022年3月31日現在

(単位: 円)

	費目	金額	備考	
収入	前年度繰越金	26,295,147		
	2021年度収入			
	同窓会会費	4,880,000	2021年度入学者 (@20,000円×250人) 中途退学者返金分120,000円含む	
	総会及び銀祝参加費	0	銀祝参加費、祝状代	
	寄付金預かり	0	バリー賞募金、被災者学生支援金	
支出	利息	239,141	上智学院預り金利息、普通預金利息	
	(2021年度収入小計)	5,119,141		
	合計	31,414,288		
	支出	費目	金額	備考
		短大通信送付費用	0	
		総会通知郵送費	0	
		ルビー祝・銀祝通知郵送費	0	
		パーティー代その他	0	ホームカミング及びルビー祝・銀祝 パーティーケータリング代、賞品代等
		通信費	718,690	同窓会事務局通信費 (インターネット料金等)、 会員あて郵便送付費
		交通費	19,288	役員交通費、キャリアプランニング講師交通費等
文具及び消耗品費		6,345	プリンターインク代、文具代、コピー代等 卒業生配布 クリアファイル代、同窓会案内チラシ代など	
会議費		35,686	オンライン会議ツール代 (zoom)	
郵送費		1,350	郵便代、宅配便等	
広告宣伝費		477,700	短大ソフィア会HP維持管理費、 同窓会紹介ビデオ制作費等	
磨布費		0		
交際費		0		
送金手数料		15,423		
寄付金		1,200,000	2021年度奨学金 (120万円)	
(2021年度支出小計)	2,474,482			
次年度繰越金	28,939,806			
合計	31,414,288			

2021年度 グッドティーチング賞

2021年度グッドティーチング賞に近藤 佐智子教授と仲沢 淳子非常勤講師が選出された。

グッドティーチング賞は、教育実践に顕著な成果をあげた教員に対し、その功績を表彰する制度で、学生による授業評価アンケート結果も選考基準の一つとなっている。

受賞した近藤教授からコメントをいただいた。



仲沢淳子非常勤講師



近藤佐智子教授

「このたびは大変光栄な賞をいただき、学生の皆様そして同僚の教職員の皆様により感謝申し上げます。2020年度はコロナ蔓延による突然のオンライン授業、2021年度はキャンパスにおけるハイフレックス授業と、長い教員生活においても稀な大きな変革を体験しました。対面とZoomで参加する学生がうまくコミュニケーションを取ることができるよう、キャンパスの各教室にPC、大スクリーン、スピーカーフォンなど恵まれた施設環境が提供されたことはとてもありがたいことでした。ハイフレックスでどのように全ての受講生にアクティブラーニングを体験してもらうかを試行錯誤しながらも授業改善に努めることができました。教職員の皆さんが技術面でまた教授法面での様々なご支援をくださったことに、また学生の皆さんの学業に取り組む積極的な態度と思いやりのある心に感謝いたします。これからこの特別な時期を乗り越えたことを糧に頑張っていきたいと思っております。」

2022年度コミュニティ・カレッジ (公開講座) オンライン講座のご紹介

コミュニティ・カレッジは、コロナウイルス感染症拡大防止のため、2021年度から全講座をオンラインで開講し、全国各地、海外からも受講いただいている。

2022年度秋期講座では、英会話、スペイン語のレベル別の講座を開講している。そのうち、「英会話初中級 仮想世界ツアー-英語~初級から中級へ~」を担当しているLupas Maria准教授に講座の内容を紹介いただいた。



Most of the online class works just like a face-to-face class. We have a textbook with vocabulary and readings. Speaking activities which are usually done in small groups or pairs can be done online using breakout rooms. The teacher visits the different breakout rooms to listen and offer help.

An advantage to taking the class from home is that learners always have everything they need for class nearby. I am surprised by how open the learners are, how seriously they prepare, and how much they want to speak English. They have a wide range of ages and life experiences. I would encourage our junior college graduates who may be thinking of brushing up their English conversation skills to consider taking a community college class online. They can take a trip without leaving their home!

(概要) オンラインであっても講座の内容や進め方は、対面とほとんど違いはありません。講座は、世界各国を題材にしたテキストと、適宜動画も使いながら進めます。受講者は少人数のグループに分かれてディスカッションやスピーチもオンライン上で行います。講師は各グループで話し合われている内容を聞き、手助けをします。自宅で学べるメリットの一つは、講座で必要な資料やツールが手近にあることです。受講者の率直さ、真剣に取り組む姿勢、そして英語を話したいという熱意に私はいつも驚かされます。卒業生の皆さん、英会話のスキルを磨き直したいなら、コミュニティ・カレッジを受講することをお勧めします。自宅を離れることなく、世界を旅することができますよ！

2023年度もオンラインでの開講を予定しており、2023年3月上旬に本学ウェブサイト上で講座詳細をご案内、募集を開始予定です。

入試日程のご案内

上智大学短期大学の教育は、キリスト教ヒューマニズムに基づいた教育の精神である「他者のために、他者とともに(For Others, With Others)」を国際社会において実践することのできる英語発信力と国際性(Global Competency)の涵養を目指しています。受験生の皆様には、本学での学びを進路の一つとしてご検討いただければ幸いです。

短期大学部では入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定することを目的とし、多様な入試を実施しています。詳しくは入試要項をご確認ください。

今後実施する入試制度は右記のとおりです。

大学案内のご請求・入学願書のダウンロードは、本学HPトップページより「入試情報」をご覧ください。

種別	募集人数	出願期間	試験日
一般選抜A日程	55	1月4日(水)～1月20日(金)(消印有効) 1月23日(月) (短大窓口受付) ^(注1)	2月1日(水)
一般選抜B日程	25	1月26日(木)～2月10日(金)(消印有効) 2月13日(月)・2月14日(火)(短大窓口受付) ^(注1)	2月17日(金)
一般選抜C日程	20	2月17日(金)～2月24日(金)(消印有効) 2月27日(月)・2月28日(火)(短大窓口受付) ^(注1)	3月2日(木)
総合型選抜(課題文利用方式)	5	1月4日(水)～3月14日(火) a～eの出願期間があります ^(注2)	出願期間により異なります ^(注2)
総合型選抜(英検・GTEC・TEAP等利用方式C)	10	1月4日(水)～3月14日(火) I～Vの出願期間があります ^(注2)	出願期間により異なります ^(注2)
総合型選抜(英検・GTEC・TEAP等利用方式D)	6	1月10日(火)～3月3日(金) A～ウの出願期間があります ^(注2)	出願期間により異なります ^(注2)

(注1) 一般選抜A・B・C日程は、上智大学短期大学部(秦野キャンパス)で窓口受付を行います。
(注2) 総合型選抜の課題文利用方式(a～e)、英検・GTEC・TEAP等利用方式C(I～V)、英検・GTEC・TEAP等利用方式D(A～ウ)の日程の詳細は本学ホームページでご確認ください。

上智大学短期大学部 2021年度決算及び2022年度予算

(単位：千円)

科目		2021年度決算	2022年度予算	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	452,382	377,151
		手数料	7,474	9,540
		寄付金	150	2,000
		経常費等補助金	98,438	91,535
		(国庫補助金)	(98,098)	(91,456)
		(地方公共団体補助金)	(340)	(79)
		付随事業収入	401	0
	事業活動支出の部	雑収入	1,205	23,417
		教育活動収入計	560,050	503,643
		人件費	361,650	389,773
		(退職給与引当金繰入額)	(3,701)	(22,233)
		教育研究経費	274,591	167,461
		(減価償却額)	(48,373)	(47,419)
		管理経費	53,020	41,235
教育活動支出計	689,261	598,470		
教育活動収支差額	△ 129,211	△ 94,827		
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	5,383	0
		その他の教育活動外収入	0	0
		教育活動外収入計	5,383	0
	支出の部	借入金等利息	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0
		教育活動外支出計	0	0
教育活動外収支差額	5,383	0		
經常収支差額	△ 123,828	△ 94,827		
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0
		その他の特別収入	1,522	46
		(施設設備寄付金)	(1,350)	(0)
		(現物寄付)	(172)	(46)
	支出の部	(施設設備補助金)	(0)	(0)
		特別収入計	1,522	46
特別収支差額	資産処分差額	59	730	
	その他の特別支出	0	0	
	特別支出計	59	730	
特別収支差額	1,463	△ 684		
[予備費]			0	
基本金組入前当年度収支差額	△ 122,365	△ 95,511		
基本金組入額合計	△ 21,416	△ 37,106		
当年度収支差額	△ 143,781	△ 132,617		

2023年度 上智大学短期大学部学生納付金

(単位：円)

	新入生 (2023年度入学者)	在学生 (2022年度入学者)	摘要
入学金	200,000	—	入学時のみ
在籍料	60,000	60,000	年額
授業料	707,000	707,000	年額
教育充実費	(※1) 200,000	180,000	年額
小計	1,167,000	947,000	
同窓会積立金	—	20,000	2年次徴収
英語力テスト受験料	9,390	3,130	1年次年3回、2年次年1回
学生教育研究災害傷害保険料	1,400	—	保険期間2年 ^(※2)
小計	10,790	23,130	
合計	1,177,790	970,130	

(※1) オリエンテーションキャンプ費20,000円が含まれますが、2023年度より宿泊を伴わない形式に変更となりましたので、実際の納入額は、180,000円です。
(※2) 修業年限を超えて在学する場合は、1年毎に800円の納入が必要です。